

所 報

No. 53

佐賀県教育センター

佐賀県佐賀郡大和町川上

TEL 0952-62-5211

も く じ

- 巻頭言「新教育に思う」..... 1
- 平成2年度佐賀県教育センター研究発表会報告..... 2
- 教育実践・研究記録入選者の声..... 3
- 教育基礎調査 報告—自己教育力の育成に関する調査研究..... 4
- 指導のチェックポイント—小学国語・情報処理..... 8
- 平成2年度教育センター研究主題と研究委員の紹介..... 11
- 私のすすめる一冊の本、平成2年度教育実践・研究記録募集..... 12

巻 頭 言

新 教 育 に 思 う

佐賀県教育センター 所長

中 尾 正 則



今の教育の難しさは、現代教育が「未来からの教育」と性格づけられるように、社会の急激でしかも大規模な変動により、過去の経験に照らして教育を考えることができなくなったことが根底にある。

現代の教育が「未来からの教育」と言われ出したのは、昭和40年代の始め頃からで、我が国における技術革新、経済の高度成長の進行と並列する。

「未来からの教育」というのは、教育の基礎を過去の経験に置くのではなく、予想される未来からの呼び掛けに応えて、未来への発展を計画し準備する教育ということである。現在進行している人間の社会・文化の変化の速さは人間の世代交替の速さを越え、子供の成長さえも追いつかないほどである。しかも、このようにして今後現出する新しい社会は、従来から存在している社会とは異質のものと捉えられている。このような状況にあっては、過去に立脚して教育を図ることは不可能である。

我が国の教育施策においては、昭和46年の中央教育審議会答申では、「社会環境の人間に対する挑戦」という項目を立てて、社会の変動の教育へのかかわりかたに言及しているが、「未来」を明確に前面に押し

出して教育の在り方を提示したのは、先般の臨時教育審議会の答申である。特に、第二次答申では第一部の全部を「21世紀に向けての教育の基本的な在り方」に当てているところである。世界の教育改革は日本の場合とは必ずしも一致しないが、根本においては、過去の伝統的社会における教育の性格を保てないことは明らかである。

このように、我が国の教育は「未来からの教育」の性格をはっきりと意識して構築された。しかし、未来は予測できる面と予測できない面との複雑な絡み合いであり、予測と計画どおりの未来が来ることはあり得ない。だとすれば、予測と計画を超える未来に対応できる能力と態度を子供に形成することこそ、今後の教育の中心的課題である。今や教育は全面的に模倣を去って、創造に就く外はなくなった。

このような認識に立てば、学校でも、創造的な教育活動がますます重視されるが、これらは研究的な取り組みによってのみ得られるものであり、教育研究の意義がより一層高まってくる。また、我が教育センターでは、学校における教育活動を支援するために研究の一層の深化を図り、質の高い研修講座を組織していくつもりである。

平成2年度佐賀県教育センター

研究発表会報告

教育センター恒例の研究発表会は、本年度、第11回を数えて、5月16日(水)、当センターで開催された。

開会式は、まず、前年度「教育実践・研究記録」入選者4名の表彰が行われ、次いで所長のあいさつ、県教育長のあいさつと続いた。開会式終了後、直ちに、研究発表会に移った。

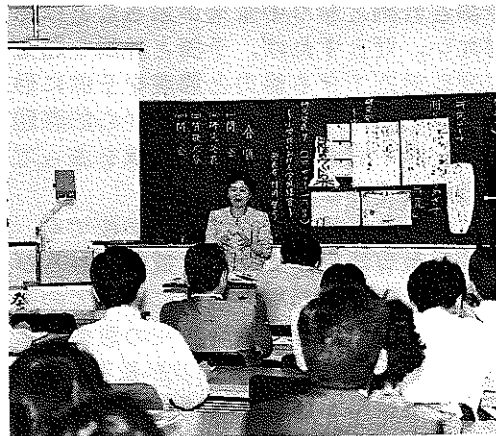
〔全体発表会〕 教育基礎調査「自己教育力の育成に関する調査研究」という主題で、所員・武田徹が、昭和63年度からとり組み、平成元年度で完結した研究の成果を発表した。

この調査は、自己教育力の構成要素に視点をあて、本県の児童生徒の実態をとらえるとともに、自己教育力に側面からかわっている環境要因の実態との関連を調べることで、自己教育力の育成のあり方について手がかりを得ようとするものである。

〔分科会発表〕 「教育実践・研究記録」の入選者とセンター所員、研究員が、それぞれの分野で研究の成果を発表した。

1 教育実践・研究記録入選者の発表

- 小学校図画工作(本庄小・宮崎祐治)
個が生きる造形学習のあり方を求めて



分科会での発表

～題材カルテを活用させて～

- 特殊教育(伊万里養護・山口民男)
自閉的傾向を持つ障害児への動作訓練を通してのアプローチ～指導法に関する事例研究～

- 高校理科(佐賀工高理科教室)
パソコンMSXを理科教育に活用する一つの試み～物体の速さを連続的に測定・記録する実験の開発～

- 高校音楽(佐賀西高・小林旭)
高等学校における創作指導の試み

2 所員・研究員の発表

- (小学校理科) 自ら考え探究する意欲を高める理科指導～C区分「地球と宇宙」を中心にして

- (中学校学級経営) 個と集団の高まりをめざす学級経営～中学校における学級経営～

- (中学校CAI) 中学校における教育用ソフトウェアの開発～英語、技術・家庭科の教育用ソフトウェア開発～

- (教育工学) 教育効果を高めるためのビデオ教材の制作～中学理科第2分野地学領域～

- (小学校学級経営) 個と集団の高まりをめざす学級経営の研究～小学校における学級経営～

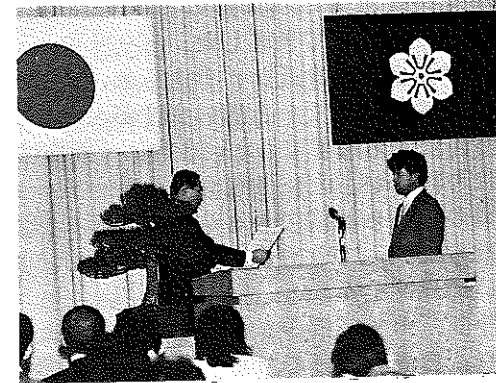
- (小学校CAI) 小学校における教育用ソフトウェアの開発～授業改善をめざす教育用ソフトウェアの開発～

- (高校CAI) 高等学校における教育用ソフトウェアの開発～データベース型CAIシステムの開発～

- (高校物理・化学) 物質の構成・エネルギーの領域における理科教材の改良と指導法の工夫

今年度参加者は、全体会約130名、分科会約420名(延)

教育実践・研究記録入選者の声



教育実践・研究記録入選者の表彰

パソコンMSXを理科教育に活用する一つの試み

～物体の速さを連続的に測定・記録する実験の開発～
佐賀県立佐賀工業高等学校

理科教室 教諭 野中 亮
教諭 中島清彦
教諭 藤崎有弘
実習教師 中山邦子

パソコンを教育に活用する試みは多くの先生が研究し、試行されている。しかし、導入に際してちょっと無理をしているのではないかと思われるところがある。理科に限って言えば、問題集そっくりのチュートリアル、生徒実験がすぐ出来るのにモニターに絵模様を書いて動画的に説明するもの、シンクロスコープで十分観測できるのにパソコンで説明しようとする。このような形でのパソコンの導入には私たちは大いに疑問を持つ。

しかし、パソコンでしかできないもの、パソコンを使って初めて従来と違った素晴らしい結果が得られるなどあるはずである。理科には実験という展開の1つのパターン

がある。この分野にパソコン導入のチャンスはいくらもあるような気がする。しかもパソコンと身構えしなくてよいような、実験セットの一部として使うことができる。パソコンべったりでもなく、パソコン嫌いでもなく、冷静にみんなでその導入をじっくり考えたいものである。そのような願望からここにパソコンMSX2を用いた実験事例を発表した。また、これを機会にMSXを使った理科実験の研究グループでもできれば望外の喜びである。MSX2はそれだけのものを持っていると思う。諸先生方のご批判とご教示をお願いしたい。

自閉的傾向を持つ障害児への動作訓練を通してのアプローチ

～指導法に関する事例研究～
佐賀県立伊万里養護学校

教諭 山口民男

自閉症児に対する訓練とはいっても正直にいうと、一体どういう風になるのであろうかというのが最初の感じであった。それ位、指導計画は立ててみたものの、子供の様子・実態に合わせて訓練をしていくので結果の予測がつかないものであった。また果たして腕上げ訓練が何処まで進む事が出来るのであろうかという不安もあった。

そんな中で、一番嬉しかった事は、子供が変わってくれた事です。それ迄は、ほとんど、指導者の指示や呼び掛けに対して無関心や聞き流し等であったのが、じっと指導者の顔を見たり、指示に従った行動が取れたり、しばらく我慢する事が出来るようになった事です。

こんな子供の変化は担任(抽出養護・訓練なので訓練者と担任が異なる)や訓練者に対して、より一層の子供の理解を高め、子供の関わり合いを深める効果を果たしま

した。子供が周囲の大人を変えていったように思えました。

訓練を通して、子供が変わり、子供が変わることで、彼を取り巻く周囲の大人の、彼を見る目や態度、関わり方等も変わっていきました。

この事例研究を通して感じた事は、子供と指導者が目的を共有し合えたならば、素晴らしいという事である。

個が生きる造形学習のあり方を求めて

一題材カルテを活用させて一

佐賀市立本庄小学校

教諭 宮崎祐治

造形教育は、子どもたち一人ひとりの工夫による様々な作品ができる点で、他教科より個性的な活動が促しやすいと考えられていますが、果たして生まれてくる作品だけで、個性重視の教育ができていのかどうかを判断することはむずかしいことだと考えます。そこで、私はこの点に疑問を感じ今一度、個が生きるための造形教育のあり方を見直してみる必要があると考えました。

そこで、作品そのものもさることながら作品をつくり上げていく過程での学習活動自体にも自分なりの個性を生かしたやり方があるのではないかとこの点に気づき、本研究をすすめてまいりました。

その結果、一人ひとりの子どもたちが、教師の設定したテーマにそって、自分なりの表現方法で、自分なりの表現活動をすることができるようになりました。その点で自分の個性を造形活動にいかんなく発揮できるようになり、より主体的で意欲的な学習がのぞめるようになりました。

しかし、まだ問題点も多く、今後いろいろな角度から再検討を加える必要があることを反省しました。これからも、子供たちのよりよい造形学習のあり方を求めて努力を重ねて研究を深めていきたいと思ひます。

これまで御指導いただいた先生方に深く感謝の意を表します。



高等学校における創作指導の試み

佐賀県立佐賀西高等学校

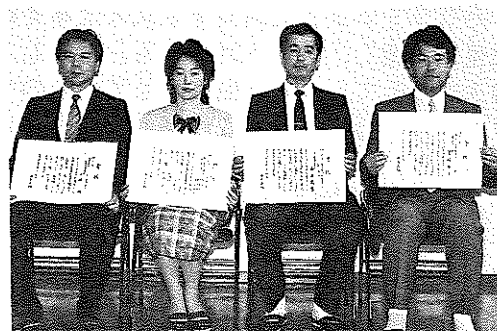
教諭 小林 旭

教室にいる生徒の全員が歌い、楽器を吹き、曲を創り、聴き親しむことができることを目標において、小学校、中学校、高等学校と授業をしてきました。

創作が生徒の身近かに考えられ、「歌うことと同じ気分です」と思いますが、ついつい生徒は考え過ぎてしまいます。「創作は、やはり難しい」という概念を生徒一人一人の頭の中から払拭できることを目標に研究に取り掛かってきましたが、未だ十分とは言え切れません。

今回、今まで創作について考えてきたものを、自分の整理のためにまとめ、応募したもので特別、研究という意識をしていないため不十分なところが多々あったと思っています。また、この研究では高等学校の創作指導に絞って発表しましたが、小学校から、中学校そして高等学校と一連の創作指導の大まかな体系を次の機会にでも発表しようと思っています。

研究について、発表は決算報告ではないと思いますので、今後新しい方法、視点、を探ることができるみずみずしい心と、柔らかな頭をいつまでも持ち続けたいと思います。



左から

佐賀西高等学校

教諭 小林 旭

佐賀工業高等学校

実習教師 中山邦子

伊万里養護学校

教諭 山口民男

本庄小学校

教諭 宮崎祐治

自己教育力の育成に関する調査研究

佐賀県教育センター教育基礎調査研究委員会

1 はじめに

近年、わが国では、急激な社会や経済の変化に対応して、21世紀をたくましく生きる人間の育成が重要な課題となっている。

教育センターでは、昭和63年度と平成元年度の2ヶ年にわたって、自己教育力の育成に関する調査研究に取り組んできた。以下、その研究内容の一部を紹介する。

2 自己教育力の構成要素

自己教育力を「主体的に変化に対応する能力」ととらえ、学習意欲、学び方、生き方の3つの要素から構成されていると考えた。これらの3つを上位項目とし、その下に10の中位項目、さらにその下に19の下位項目を設定し、自己教育力を構成している要素を考えた。

また、自己教育力に側面から深くかかわっているものとして環境要因を考えた。

さらに、各下位項目に見合う設問項目を作成し、本県の児童生徒の自己教育力の実態を調査した。

右の図1は自己教育力及び環境要因の構成要素の関係図である。

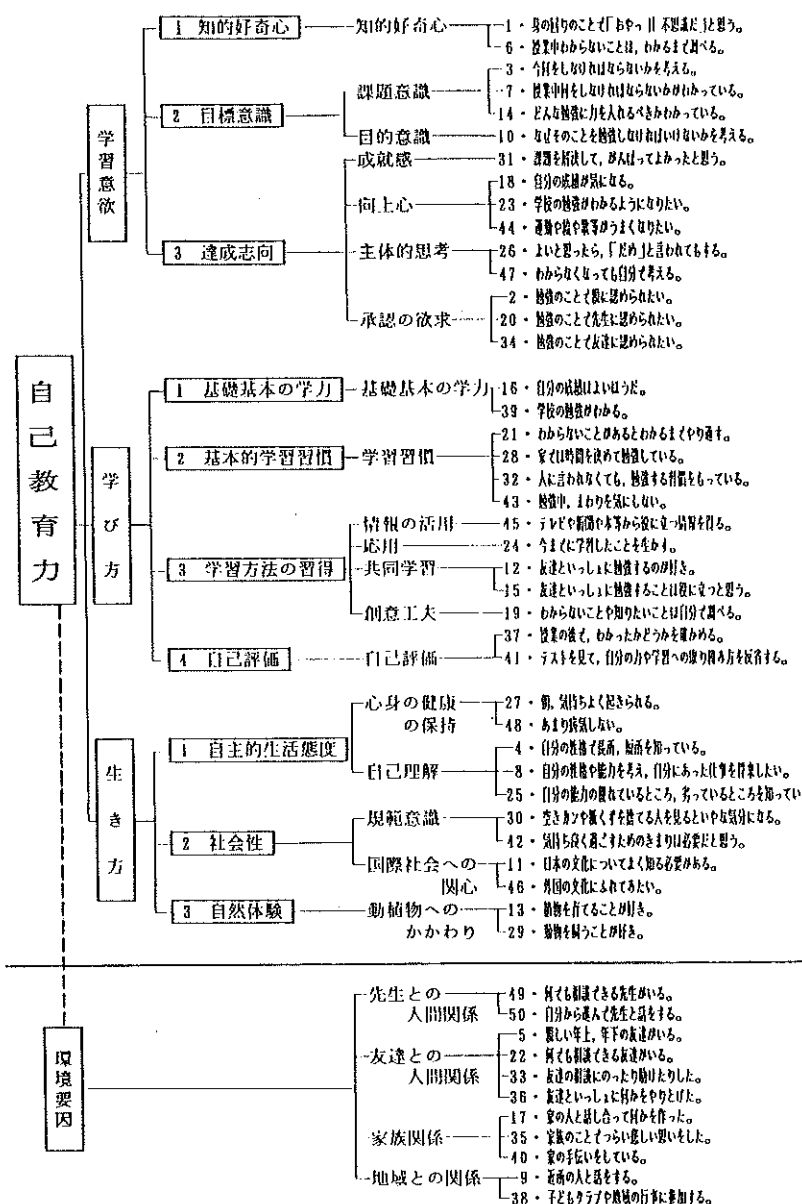


図1 自己教育力の構成要素関係図

指導のチェックポイント

小学国語

作文指導の工夫について

1 はじめに

作文の時間になると、「何でもいいから詳しく書こう」として書かせる。この指導の結果であろうか、作文の実態調査をすると、「書くことがない・書き方が分からない・書くのが面倒だ」などという子どもたちの声が必ず返ってくる。子どもたちは、書くことを苦にしている。喜んで書くとははいかないにしても、書くことへの抵抗を少しでも減らし、気軽に鉛筆をもって書くことができる子どもへと近づけたい。

2 書く学習に変化を

子どもたちに気軽に書かせるには、教科書に作文単元があるから原稿用紙に書かせるだけでなく、いろいろな機会や場を利用したり書く形式を変えたりするなど、学年の発達段階に応じて工夫を図る。

○いろいろな機会に

朝の会や帰りの会などを利用して、したこと・見たこと・聞いたこと・漢字を2つ以上入れて書く・会話文などを入れて書くなど、曜日別や週別に観点を示しながら書かせる。書いたものは、例え一行であっても、認めたりほめたりするとともに、紹介の場を設けることで書き続けさせる。また、他教科書等の時間のなかでも書く場を設けたりするなど、書く機会を多くする。

○形式を変えて

物語文の学習で人物の心情を吹き出しに書かせるように、書く範囲を示す形や線を変えた用紙、さし絵・写真・新聞の記事などを入れた用紙などを準備する。糊を使わないで貼ることのできるメモ用紙や、葉書き・便箋なども利用できる。原稿用紙だけでなく、書く用紙の形式を変える。

○題材を見つけて

書くことは、行事などのしたことを思い出させて書かせるだけでなく、描写すること・作ったり調べたりしたこと・図表やグラフに整理したことなど、題材を開発することである。子どもに新鮮さを感じさせるものか・量や質はどうかなどを考えながら、新聞・雑誌・広告などの中にも、題材を求めることもできる。また、題名を与える時も、アナウンサーになってのように書く立場を変えたり擬人化したりして書かせるなど、子どもの考えをゆさぶりたい。

3 3年生での事例

新聞の写真を見て、考えたことを書くことをねらいとしたものである。

・火山の爆発と電話をかけている牛（広告）という無関係な写真を示し、短い話作りを指示した。火山の方から考えたり、牛の方から考えたりしながら、話を作った。

・ムツゴロウの写真を示し、5種類の書き出しを書いたプリントを渡した。書き出しの文章を確かめ、自分が書きやすいものを選び、つづきを書くようにさせた。書き出しの文は、「みなさんは、ムツゴロウをしんぶんやテレビで見たことがあるでしょう。とりに行ったことがある人も、多いと思います。そのムツゴロウを」「わたしは、写真がすきです。たくさんもっています。その中でも気に入っているのが、この写真です。今日は、この写真についてせつめいします。」「きのう、ぼくはお父さんと有明海に行きました。お父さんが、『ここが有明海だよ。』と言いました。しばらくまわりを見ていると、すぐ近くにムツゴロウがいるのが分かりました。」「ここは、有明海です。全世界の人々がまわっていた、ムツゴロウのジャンプ大会がはじまろうとして

います。」「『たいへんだ、たいへんだ。』『どうしたんだい、そんなにあわてて。ムッチャン。』『テレビのニュースで、あそ山がぼくはつしたといていたよ。それに、火山からでてきたはいなどが、この海までとんでくるかもしれない、といていたよ。』『そりゃ、たいへんだ。ようし、ジャンプの名人のおれさまがー』」などである。書き出しを決めるのに時間をかけていたが、つづき話を作っていた。

・新聞の写真をついた用紙を、子どもの数の1.5倍ほど渡し、自分の好きな写真を決めさせた。写真は、花火大会・魚釣り・もちつき・火事・交通事故などのように、異なったものである。決めた理由を確かめ、前の活動でしたいろいろな語り方を参考に自分の好きな語り方で書くように指示し、机間指導をした。写真を選んだ理由、写真から分かること・いつ・どこで・だれが・どのように・どうした、色・形・大きさ、写真から考えたこと・物語的に書くか・説明的に書くか、などについて個別に指導した。

・書いたものを紹介しあった。選んだ写真にもよろうが、一文を短くしたものや会話文を入れたものが多く見られた。また、書くことに興味を示し、いろいろな発想を生かして書くことができた。しかし、ことばの使われ方が一般的であったので、語いを獲得させる必要を感じた。

4 おわりに

作文指導の中心は教科書の作文単元であり、取材・叙述・推敲という一連の表現過程を習得させることである。作文単元があるから教材を指導するというだけでなく、作文単元と関連をもたせながら題材を開発し多様な種類の文章（目的・意図・状況・相手などに応じた説明的な文章、筋道をたてた論説的な文章、自分の考えを的確にまとめた意見的な文章……）を書けるようにしていく必要がある。そのためにも、子どもたちの興味関心を高める書く活動を組織し、作文の楽しい授業づくりに励みたい。

（所員 本村 剛三郎）

情報処理教育

情報処理教育における
教職員研修と生徒実習

情報化の波が家庭生活の中にまで深く打ち寄せてきている今日、誰でも情報処理ということを経験して通れなくなってきた。日常生活を振り返ってみても無意識のうちに処理していることが実に多くある。

今回の教育課程の改訂によって、職業教科の中にコンピュータに関する科目・内容が多く見られるようになった。従って以前にもまして多くの教師が情報処理に関する知識・技術の習得が必要になってきた。

以下、教職員研修と生徒実習の実情等について述べることにする。

1 教職員研修について

(1) 研修実績

情報処理に関する研修講座は昭和56年度に情報処理基礎（商）14名、情報技術基礎（工）18名でそれぞれ3日間の講座としてスタートした。57年度にはNC工作機械の講座が追加され58年度からは9講座となった。

昨年度までに短期・断続研修講座を受講したおおよその人数は、商業系講座290名、工業系講座510名、長期研修講座50名の計850名を越えた。

(2) 平成元年度の研修

従来の商業の「フォートラン初級・中級」講座を農業・家庭のベーシック言語による「プログラミング基礎」講

座に、工業の「フォートラン応用（図形）」を「マイコン制御」にそれぞれ変更して現場の先生方の要請に応えることとした。いずれも定員を大幅に越える受講者があった。

研修実績は次の通りである。

	講座名	日数	人数
商業	コボル初級	5	8
	コボル中級	4	6
	情報処理断続研修	20	3
工業	フォートラン初級	5	4
	フォートラン中級	3	7
	マイコン制御	4	16
	N C (基礎)	4	4
	N C (応用)	3	5
	情報処理断続研修	20	5
	N C 断続研修	20	5
農・家	プログラミングの基礎	5	20

(3) 平成2年度の講座名の変更

- ① フォートラン初級→フォートラン初級程度の内容を理解された方を対象とするが、受講者により初心者にも対応できるようにした。
- ② フォートラン中級→C言語
現場の先生方からの要望もあり最近はやりのC言語をパソコンを使って初心者を対象に演習・実習を行う。
- ③ 数値制御工作機械（基礎）
→数値制御工作機械
基本的なG言語を理解された方を対象とするが、初心者も受講できるように弾力的に実施する。
- ④ 数値制御工作機械（応用）
→C A D・C A M
コンピューター更新の目玉として新設した。

2 生徒実習

すでにご存知のように、昨年3月に汎用コンピュータをMELCOMからFACOMに更新した。このシステムの主な装置の数量、性能、機能等については既に紹介した通りである。

導入後の言語実習においては、メニュー画面の表示が見にくかったり、処理手順が合理的でなかったり、あるいは処理時間が長かったりした。数値制御工作機械

の実習に関してもメニューの構成や順序についても何度か変更した。特にプログラムが3か所異なったこととプログラムのチェックソフトが不十分だったことから機械が停止することが度々あった。そのため帰校時間が遅くなったり、全員が切削できなかったこともあり大変ご迷惑をかけた。現在は、スムーズに実習が行われている。

(1) 生徒実習の実績

商業系の情報処理科は2回、他科は1回。工業系の機械科、電子科及び金属工業科は2回、他科は1回在学中に実習することになっている。

平成元年度は次の通りである。

	電子計算機		N C工作機械	
	学級数	生徒数	学級数	生徒数
商業	43	1803	—	—
工	9	331	52	1933
計	52	2134	52	1933

(2) 実習言語（平成2年度）

商業系では70%近くのクラスがコボルで、次にフォートラン、ソフト、ベーシックの順となっている。

工業系は85%以上のクラスがG言語を使用したN C工作機械実習で、残りはフォートラン、ベーシックの順になっている。

3 終わりに

最近既存の講座については受講者数が停滞傾向にある。講座名や内容についても意見、要望を伺いながら変更、改善していきたいと思う。

生徒実習については引率の先生方の指導のもとに端末に向かって一生懸命に取り組んでおり、だれ一人としてサボっている姿は見られない。すばらしい光景である。また、N C工作機械では感動的に切削の状況を見つめている。早く切削が終わった生徒についてはC A Dを使用させているがベーシック、ワープロも使用させている。特にC A Dについては熱心に操作して図形をかいている。

（所員 江 藤 周 二）

平成2年度

教育センター研究主題と研究委員の紹介

研究領域	研究テーマ	研究委員
1. 基礎調査	「児童・生徒の学び方に関する調査研究」	長野代志美（教育センター所員） 平片日出生（「」）
2. 国際理解	「学校教育において国際理解教育をどう進めていくか」～将来あるべき日本人として資質育成をめざして～	川崎 信幸（新築小） 吉永徳太郎（山代中） 森 正紀（武雄高）
3. 小学国語	「作文指導における単元構成に関する研究」	檜崎タキコ（麓小） 浦郷 究（附属小）
4. 小学生生活	「小学校生活科の指導過程に関する研究」～総合活動をめざした指導計画と指導のあり方について～	岩永 悟（嬉野小） 山口 栄子（北茂安小）
5. 小学社会	「生活科との関連を考慮した3年生の地域学習に関する研究」	寺崎 武利（鳥栖小） 村田 達則（大草野小）
6. 小学算数	「図形感覚を豊かにする学習指導のあり方」	鐘ヶ江義昭（武雄小） 諸隈 英之（神埼小）
7. 小学理科	「理科学習における児童の自然認識におよぼす生活実感の影響に関する研究」	牟田 正徳（開成小） 福田浩一郎（佐志小）
8. 小学特別活動	「小学校における学校行事に関する調査研究」	直島 信明（仁比山小） 草場 浩（三田川小）
9. 小学C A I	「小学校における教育用ソフトウェアの開発～教材作成の負担を軽減するソフトウェア及びLOGOの利用方法の開発～」	渡辺 直也（若葉小） 宮山 建（本庄小）
10. 中学国語	「中学校における国語科書写指導の展開と工夫」	大塚 香（上峰中） 堀原 泰信（中央中）
11. 中学社会	「地理・歴史並行学習指導法の研究」	内山 敏之（佐志中） 多久島文樹（中央中）
12. 中学数学	「図形における論証指導のあり方」	井手 芳郎（第一中） 岡 哲也（塩田中）
13. 中学理科	「中学校理科における初期発生の教材化」～県内に分布する両棲類を用いて～	江頭 直子（城北中） 井手 博司（第五中）
14. 中学英語	「聞く力を養う指導法の工夫」	朝長 省吾（伊万里中） 濱田 英樹（佐志中）
15. 中学学級経営	「望ましい学年集団づくりをめざした学級経営に関する研究」	荒木 房子（成章中） 福岡 慶（基山中）
16. 中学C A I	「中学校における教育用ソフトウェアの開発」	川崎 健二（白石中） 大串 兼三（西部中）
17. 高校国語	「高等学校国語標準学力検査問題に関する研究」	野口 盛（佐賀西高） 岩崎 俊郎（武雄高）
18. 高校社会	「地域素材の精選とその活用による歴史的思考力の育成」	川副 義教（佐賀西高） 家永 国広（神埼高）
19. 高校数学	「高等学校数学標準学力検査問題についての研究」	横尾 博見（武雄青陵） 岩橋 誠（唐津東高）
20. 高校理科生物	「バイオテクノロジーを利用した生物実験の研究」～動物の卵をつかった核移植～	中尾 研二（三養基高） 中島 秀明（致遠館高）
21. 高校理科物理	「電磁気分野における物理教材の開発と指導法の工夫」～コンピュータの活用～	東嶋 徹（佐北高） 瀬戸 真樹（有田工高）
22. 高校理科化学	「新学習指導要領の目指す高校化学の指導について」	原口 元茂（太良高） 西田 寛（東松浦高）
23. 高校理科地学	「地電流の研究」～地電流の測定法およびその教材化についての考察～	北村 哲一（鹿島実高） 一ノ瀬恵昭（塩田工高）
24. 高校英語	「Team Teachingによる「書くこと」の指導の工夫」	西山 正廣（鳥栖高） 小方千江子（佐賀北高）
25. 高校C A I	「高等学校における教育用ソフトウェアの開発」	松尾 敏実（致遠館高） 山田 洋（金立養護）
26. 教育工学	「学習効果を高めるためのビデオ教材の制作」～中学理科～	武富与一郎（思斉中） 三浦 弘明（中央中）
27. 教育相談	「登校拒否児童・生徒の予後調査」	長森 君代（教育センター所員） 芦田 修一（「」） 小山 正己（「」）
28. 特殊教育	「小・中学校特殊学級における交流教育のあり方について」	山田 政昭（川上小） 峰松 洋子（鹿島小） 山崎 泰（西唐津中） 牟田口 務（城南中）

私のすすめる「一冊の本」

「愛に生きる」 (講談社)

鈴木 鎮 一

「どの子も育つ育て方ひとつ」をモットーに、才能教育運動を起こされた著者が、自らの実践を紹介しながら、「才能はつくられる」という信念を確固たるものにしていった過程が参考になる。

特に、「正しい努力」をすれば、ただけの能力は必ず身につくことを、自分の経験を通して訴えておられるので説得力がある。

愛による教育を提唱した名著と思う。

白石町立白石小学校

校長 蒲 原 俊 生

「孔 子」 (新潮社)

井 上 靖

筆者は巻頭近く、「天、徳を予に生せり」と孔子の言葉を掲げます。神は私に使命と能力を与えているというのです。

孔子の説く思想は、或は時代のカセをのがられないかも知れません。が、その人類の教師としての生きざまは、流石に時空を超えて壮大であり崇高です。

久しぶりに読まねばならぬ書物に出会った想いがする硬質の文学です。

太良町立多良中学校

校長 福 川 清 治

「指導者とは」 (文芸春秋社)

リチャード・ニクソン 徳岡孝夫 訳

著者は、ウォーターゲート事件で失脚したかの第37代アメリカ大統領のニクソン氏です。「偉大な指導者の足音の中に、人類は雷鳴にも似た歴史のとどろきを聞く。」という書き出しで、いわゆる戦後の世界歴史を動かしたチャーチル、ドゴール、アデナウアー、フルシチョフ、吉田茂、周恩来など、その人物と功罪を描くことにより、著者の「偉大な指導者論」を展開しています。この本には、修羅場をくぐり抜けた政治家の血が煮え立っています

県立中原養護学校

校長 内 田 悌 二

「対談 銀色のあしあと」 (命のことば社)

三浦綾子・星野富弘

「愛、深き淵より」等の著者で知られている、星野富弘さんが、今日あるに大きな影響を与えたのは、作家、三浦綾子さんである。

このお2人の飾らない、自由な対話の中に、生きる力となる言葉や、真実にふれた言葉が、読者に感動を与え、心の奥深く残るものがある。ぜひ、一読をしていただきたい。

鳥栖市立旭小学校

校長 峰 英 之

平成2年度

研究実践・研究記録募集

児童・生徒の学力・体力の向上を図り、豊かな人格の育成をめざして、先生方には日夜、学校教育のそれぞれの分野で、研究実践を重ねておられることと思います。

学校全体で、グループで、あるいは個人で研究・実践されました貴重な記録を整理され、論文にまとめられまして、奮ってご応募ください。

- ・応募締切り 平成2年12月1日(土)
- ・枚 数 教育センター配布原稿用紙で15枚以内

なお、詳細につきましては、「平成2年度教育実践・研究記録募集要項とポスター」を各学校に配布しておりますので、それをご覧ください。

※ 問い合わせ先

佐賀県教育センター教育経営係
(担当 村岡 智彦)

私がかわる!

子どもがかわる!

未来がかわる!

